

# 中学校社会科学学習指導案

三原市立大和中学校  
教諭 植田 昌広

## 1 分野 歴史的分野

## 2 学年 第1学年

## 3 単元 「武士の台頭と平氏政権」

### 4 単元について

#### (1) 単元観

本単元は、武士が台頭し武家政権を成立させるにいたる12世紀の我が国の歴史を扱ったものである。武家政権の先駆けといえる平氏政権は、日本が古代から中世に移行する上で大きな歴史的な意味をもつ政権であり、本単元は武家政権が展開される中世の日本を理解させるために重要な単元といえる。中学校学習指導要領においても、内容(3)のアで、「武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開」について理解させるとともに、「その間の東アジア世界とのかかわりに気付かせる」ことをねらいとして挙げている。

本単元では、平清盛が朝廷内で勢力を強めていく段階から平氏が衰退していくまでの歴史の流れを、政治面からだけでなく外交面や経済面からも考察させ、平氏政権成立の理由が源氏や貴族などの対立勢力を駆逐したことによる政治的な成長と、宋との貿易も含めた経済的な成長にあることを理解させたい。

#### (2) 生徒観

本学年の生徒は、社会科に対して苦手意識を持っている者が多く、授業において活発な発言はあまりみられない。しかし、復習などに地道に取り組み、学習に対して意欲を持って取り組んでいる生徒が多い。発言を苦手としている理由として、資料の読み取りが不十分であることが考えられる。資料から情報を取り出すことが正確にできない生徒は、授業で取り扱う社会的事象についての考察が十分にできないため、結果として発言ができず、事実や解釈を暗記するだけの学習に留まっていると考えられる。

#### (3) 指導観

指導にあたっては、提示する様々な資料の読み取り方法を丁寧に指導して、情報の取り出しが正確に行えるようにする。具体的には、地図や図版などから疑問に思う点などを挙げて発表させたり、グラフの最大値や最小値を読み取らせたり、文献から頻出する語句を読み取らせる指導などを行う。その際、社会的事象の一面的な解釈を押し付けないように、資料を通して様々な角度から考察させるようにしたい。また、政権成立の理由を各種資料の読み取りから考察させ、今後の学習においても活用できるように、政権成立についての理論を習得させたい。

### 5 単元の目標

- ① 年表、統計、文章、図版、地図の読み取りを通して、武士が台頭する過程を多面的・多角的に考察し、平氏政権が貴族政権と武家政権の双方の特徴をもった過渡的な政権であったことを理解させる。
- ② 平氏政権の基盤が、源氏を駆逐した軍事力だけでなく、全国の半数にも及ぶ広大な知行国や日宋貿易で得た莫大な経済力であったことを理解させ、政権成立についての理論を習得させる。

【学習指導要領の内容項目(3)ア】

### 6 単元構成

単元「武士の台頭と平氏政権」(全5時間)

- |           |       |
|-----------|-------|
| 1 政権獲得の条件 | (1時間) |
| 2 対抗勢力の駆逐 | (2時間) |
| 3 経済力の確保  | (1時間) |
| 4 政権崩壊の理由 | (1時間) |

## 7 単元の評価規準

ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての 知識・理解
○武士の台頭の中から平氏 政権が成立したことと、そ の後の武家社会の展開に 対する関心を高め、意欲的 に学習している。	①平氏が源氏を駆逐する過 程について、多面的・多角 的に考察している。 ②平氏が摂関家などの貴族 勢力を駆逐する過程につ いて、多面的・多角的に考 察している。 ③平氏が経済力を確保する 過程について、多面的・多 角的に考察している。 ④平氏政権の成立から崩壊 までの過程を通して、政権 成立の理論について、多面 的・多角的に考察してい る。	①武士の台頭に関する図版、 文献、統計などの資料を読 み取り、それを根拠として 活用している。 ②平氏が源氏を駆逐する様 子に関する図版や文献を 読み取り、それを根拠とし て活用している。 ③平氏が貴族勢力を駆逐す る様子に関する図版や系 図を読み取り、それを根拠 として活用している。 ④平氏の経済力の成長に関 する地図や統計資料を読 み取り、それを根拠として 活用している。	○平氏政権の成立から崩壊 までの過程を通して、平氏 政権が成立した理由を理 解している。

## 8 単元の指導計画（全5時間）

学 習 内 容 (時数)	評 価				評価規準	評価方法
	関	思	技	知		
1 政権獲得の条件 ■武士の台頭 ■藤原氏における政権獲得 の条件	◎				ア 武士の台頭の中から平氏政権が成立したことと、 その後の武家社会の展開に対する関心を高め、意 欲的に学習している。 ウ①武士の台頭に関する図版、文献、統計などの資料 を読み取り、それを根拠として活用している。	ワークシート 発表内容 行動観察
2 源氏勢力の駆逐 ■保元の乱と平氏 ■平治の乱と平氏 ----- 貴族勢力の駆逐 ■武士と貴族の関係 ■平氏による天皇の権 威の利用		○			イ①平氏が源氏を駆逐する過程について、多面的・多 角的に考察している。 ウ②平氏が源氏を駆逐する様子に関する図版や文献を 読み取り、それを根拠として活用している。	ワークシート 発表内容 行動観察
		○			イ②平氏が摂関家などの貴族勢力を駆逐する過程につ いて、多面的・多角的に考察している。 ウ③平氏が貴族勢力を駆逐する様子に関する図版や系 図を読み取り、それを根拠として活用している。	ワークシート 発表内容 行動観察
3 経済力の確保 ■広がる知行国支配 ■日宋貿易 (本時)		○			イ③平氏が経済力を確保する過程について、多面的・多 角的に考察している。 ウ④平氏の経済力の成長に関する地図や統計資料を読 み取り、それを根拠として活用している。	ワークシート 発表内容 行動観察
4 政権崩壊の理由 ■平氏政権崩壊の理由		◎			イ④平氏政権の成立から崩壊までの過程を通して、政 権成立の理論について、多面的・多角的に考察し ている。 エ 平氏政権の成立から崩壊までの過程を通して、平 氏政権が成立した理由を理解している。	ワークシート 発表内容 行動観察

## 9 本時の展開

### (1) 本時の目標

平氏の知行国の広がり様子と厳島神社の整備など西国経営の様子に関する資料を考察することを通して、平氏政権の経済的基盤が知行国経営と宋との貿易であったことを理解させる。

(2) 学習の展開

学習内容・学習活動・発問	指導上の留意点	評価規準	評価方法
<p><b>導入 政権獲得の条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■平氏は政権を獲得するために、どのようなことをしたのだろうか。 生徒…源氏や摂関家などのライバルを排除した。</li> <li>■そのほかにないだろうか。</li> </ul>	<p>前時までの復習も兼ね、既習内容を思い出させる。</p>		
<p><b>なぜ、平氏は政権を獲得することができたのだろうか</b></p>			
<p>■平氏が政権を獲得できた理由を考える上で、手がかりになるものが広島県にはある。それは何だろうか。 生徒…厳島神社</p> <p>■厳島神社と平家納経の図版を提示&lt;資料&gt;</p> <p>■厳島神社と平氏の関係を示す年表を提示&lt;資料&gt;</p> <p>■なぜ、これほど手厚く厳島神社にお金をかけることが可能だったのだろうか。 生徒…厳島神社へのあつい信仰心があった。平氏には莫大な経済力があつた。</p> <p><b>展開1 平氏の持つ経済力の源①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■平氏には、どれだけの経済力があつたのだろうか。</li> <li>■平清盛の父平忠盛に関する文章を提示&lt;資料&gt; 生徒…平忠盛の頃から経済力をつけていた。</li> <li>■平氏の経済力の源は何だろうか。平安時代の藤原氏を基に考えてみよう。 生徒…全国に広がる荘園</li> <li>■藤原氏の荘園の分布を示す地図と荘園の納税額を示す統計資料を提示&lt;資料&gt;</li> <li>■平氏がどのくらいの経済力をもっていたか、何を調べればわかるだろう。 生徒…平氏の荘園の分布図</li> <li>■知行国の説明</li> <li>■平氏の知行国の広がりを示す地図と平清盛地位を示す年表を提示&lt;資料&gt;</li> </ul>	<p>参詣の経験のある生徒から神社についての情報を出させる。</p> <p>寝殿造の豪華な社殿、贅沢で豪華な平家納経について説明する。 厳島神社は平氏と密接なつながりがあることを年表などから気付かせる。</p> <p>豪華な社殿や平家納経を通して、平氏の経済力という視点に着目させる。</p> <p>全国に広がる荘園の地図と手にした税額を現代の金額に換算して提示し、いかに巨額であつたか理解させる。</p> <p>平治の乱以前、太政大臣就任時、鹿ヶ谷事件直前、鹿ヶ谷事件直後の地図を時系列で提示する。</p>	<p>ウ④ 平氏の経済力の成長に関する地図や統計資料を読み取り、それを根拠として活用している。</p>	<p>ワークシート 発表内容 行動観察</p>

<p>■平氏の知行国は西日本と東日本のどちらに広がっているだろう。 生徒…西日本</p> <p>■西日本の特にどのあたりが多いだろう。 生徒…近畿・中国地方</p> <p>■厳島神社に対する莫大な寄進を可能にした平氏の経済力の基盤は何だろう。 生徒…西日本に広がる知行国からの収入</p> <p><b>展開2 平氏の持つ経済力の源②</b></p> <p>■平氏は何を神様に祈ったのだろう。厳島神社の神様は何を司る神様なのだろう。 厳島神社の由来を示す文章の提示&lt;資料&gt; 生徒…航路の安全を守る神様が祭られている。</p> <p>■なぜ、航路の安全を祈る必要があったのだろう。 生徒…わからない。</p> <p>■古代以来、瀬戸内海は重要な地域だった。どのような点で重要なのだろう。 生徒…畿内と九州を結ぶ航路 日本と中国を結ぶ航路 人や物が移動する重要な道</p> <p>■平氏にとって、瀬戸内海は支配領域の中心であると同時に、中国へのルートとして重要な道だった。平氏は、中国になぜ船を送ったのだろう。 生徒…貿易を行うため。</p> <p>■日宋貿易ではどのような品々が輸入されたのだろう。 宋からの輸入品の図版の提示&lt;資料&gt;</p> <p>■当時としてこれらの品々は、めずらしい品々だった。値段はどうだったのだろう。 生徒…高価</p> <p>■高価で教養が必要な品を購入できるのは、どのような人々だろう。 生徒…都にいる貴族たち</p> <p>■平清盛が整備した港が大阪湾近辺にある。それはどこだろう。 生徒…大輪田泊</p> <p>■当時の貿易の窓口は九州の大宰府だった。平清盛は大宰府を掌握するとともに、大輪田泊を整備した。何の目的で、大輪田泊を整備し</p>	<p>清盛の地位が上がるにつれ知行国が増えていることを理解させる。</p> <p>京から瀬戸内、北九州を押さえていたことに着目させる。</p> <p>遣唐使などの既習内容を手がかりとして考察させる。 陸路が整備されていなかったため、瀬戸内海は、物流において重要な交通路であったことを理解させる。</p> <p>教科書や副教材の資料を活用させる。</p> <p>輸入された陶磁器、経典や書物は貴重であったことに着目させる。</p> <p>教科書の地図を活用させる。</p> <p>清盛は独占的に貿易を行い、利益を得るため瀬戸内航路の経営を行ったことを理解させる。</p>		
--	--	--	--

<p>たのだろう。</p> <p>生徒…陸路は一度に多くの物を運ぶことができないから、都に近いところまで船で運んだ方がよい。</p> <p>宋の商人と自分との間に九州の商人など他の勢力が入らないようにして利益を独占した。</p> <p><b>4 まとめ</b></p> <p>■平氏の莫大な経済力の源は何だろう。</p> <p>生徒…西日本を中心に広がる知行国と日宋貿易がもたらす莫大な利益</p> <p>■なぜ、平氏は政権を獲得できたのだろう。</p> <p>生徒…莫大な経済力を手に入れることで、他の勢力を圧倒した。</p>	<p>経済力獲得が政権獲得のために不可欠であることを理解させる。</p>	<p>イ③</p> <p>平氏が経済力を確保していくまでの過程について、多面的・多角的に考察している。</p>	<p>ワークシート</p>
--	--------------------------------------	---	---------------